

# 近世文芸研究叢書

第二期芸能篇 全40卷

近世文芸研究叢書刊行会編



クレス出版

## 『近世文芸研究叢書』第二期芸能篇刊行にあたって

小社ではすでに『近世文芸研究叢書』の第一期として文学篇を刊行した。

このたびは、第二期として芸能篇を刊行する。近世に成立した歌舞伎・浄瑠璃・舞踊・邦楽・舌耕芸などの各分野について、明治・大正・昭和極初期に出版された研究書を復刻するものである。すでにこの分野でもいくつかの書が復刻されているが、原則としてそれは避け、入手困難な稀観書を中心に、いっぽうで研究史上重要な資料を逸せざるよう配慮しつつ編纂した。

戦後の近世芸能研究は、資料整備に重点をおき、古浄瑠璃や近松を中心とする浄瑠璃正本、役者評判記、絵入狂言本、歌舞



高居清經画

伎台帳など多くの集成が編まれ、それにもとづいた詳細な研究が進められてきた。その結果は今日の研究水準に表われているが、一方で芸能史全体を見通した把握や舞台の実際からは離れた、局部的な資料研究に留まる面も否定できない。

今日の研究の土台となった戦前の研究には、資料的な限界はあるが、まさしく唯一の国劇であった歌舞伎が近代化の波にもまれるなかで、その価値や将来を模索しつつ、日本芸能史の流れに歌舞伎を位置づけようとする意欲的な研究や、明治文楽の繁栄の一方で、戯曲として浄瑠璃をとらえる文学的視点、次代への伝承を念頭においた技法の分析など、はじめて芸能というものを研究の対象とした時期の、みずみずしく雄大な構想に、今日なお学ぶべきところは少なくないと信ずる。また、大正の関東大震災や太平洋戦争で焼失した資料を用いたすぐれた研究もみられ、その価値は軽視できない。

こうした明治大正期の図書が急速に入手困難になってきた現状のなかで、あらためて叢書として基本資料を網羅し、研究史を展望するとともに、二十一世紀の研究への足がかりを提示したい。

# 近世文芸研究叢書 第一期芸能篇 全40巻構成

## 1. 歌舞伎 I

1	演劇史	谷口 政徳	福地 復一 明治20年3月
2	演劇通史	花房 義実	金港堂原亮三郎支店 明治23年8月
3	日本演劇史	伊原 敏郎	早稲田大学出版部 明治37年3月
4	近世日本演劇史	伊原 敏郎	早稲田大学出版部 大正2年6月
5	明治演劇史	伊原 敏郎	早稲田大学出版部 昭和8年11月
6	日本劇場史	後藤 慶二	岩波書店 大正14年11月
7	簡易なる日本国劇史	浜村 米蔵	新潮社 大正15年9月
8	劇場の脚色	華本安治郎	華本安治郎 明治11年6月
9	芝居見物心得	赤塚錦三郎	兎屋 明治15年4月
10	芝居見物心得 後編	赤塚錦三郎	兎屋 明治15年5月
11	劇場好必携	杉本 尚正	杉林堂 明治25年10月
12	芝居通鑑	鴛溪仙史	鳴声館 明治27年1月
13	芝居かがみ	小泉 迂外	辰文館 明治45年2月
14	浄瑠璃作者論	鶴陰逸史	金泉堂 明治19年10月
15	演劇改良論私考	外山 正一	丸善書店 明治19年9月
16	劇場改良法	改進黨人	大阪出版会社 明治19年10月
17	演劇改良意見	末松 謙澄	文学社 明治19年11月
18	演劇改良論駁議	無一庵無二	今古堂書房 明治19年11月
19	演劇改良三人笑話	二本亭松風	明治書房 明治20年5月
20	演芸改良の必要	菱川 香夢	日本演芸改良株式会社 明治34年7月
21	芝居改良	時事新報社	金港堂書籍 明治35年9月
22	演劇改良私見	三宅 豹三	私家版 明治39年1月
23	演劇叢話	関根 只誠	文栄堂書店 大正6年7月
24	芸苑講談	関根 黙庵	いろは書房 大正3年10月
25	歌舞伎劇と其俳優	関根 黙庵	国史講習会 大正11年3月
26	芝居錦絵集成	山村 豊成 町田 博三	精華社 大正8年6月
27	新聚歌舞伎役者絵画集	吉田 暎二	歌舞伎出版部 昭和2年10月

## 2. 歌舞伎 II

1	名譽俳優列伝 第壹篇	高村 勉	法木徳兵衛 明治15年3月
2	梅見時春に成駒	岩原梨園子	明二堂 明治21年2月
3	故坂東家橋逸事	磯川 子	成美堂 明治26年5月
4	第十二世守田勘弥	大槻 如電	守田 好作 明治39年10月
5	尾上菊五郎自伝	尾上菊五郎	時事新報社 明治36年3月
6	五世尾上菊五郎	山岸 荷葉	文学堂 明治36年3月
7	市川団十郎の代々	伊原 敏郎	市川宗家 大正6年10月
8	市川団十郎	伊原 敏郎	エックス倶楽部 明治35年12月
9	団洲百話	松居 真玄	金港堂書籍 明治36年11月
10	桜痴居士と市川団十郎	榎本 虎彦	国光社 明治36年11月
11	第九代市川団十郎略伝	福地源一郎	福地源一郎 明治36年11月
12	舞台之団十郎	伊原 敏郎	同刊行会 大正12年3月
13	五世尾上菊五郎	安部 豊	同刊行会 昭和10年2月
14	芝居の型	林 翠浪	磯部甲陽堂 明治44年1月
15	勸進帳考	伊坂 梅雪	法木書店(初版大正3年) 昭和2年4月
16	助六由縁江戸桜の型	遠藤 為春 木村 錦花	劇文社 大正14年2月
17	世話狂言の研究	古劇研究会	天弦堂 大正5年11月
18	河竹黙阿弥	河竹 繁俊	演芸珍書刊行会 大正3年12月
19	日本演劇の研究	高野 辰之	改造社 大正15年7月
20	日本演劇の研究 第二集	高野 辰之	改造社 昭和3年6月
21	歌舞伎概論	飯塚友一郎	博文館 昭和3年9月

## 3. 浄瑠璃

1	浄瑠璃史	寺山 星川	新進堂 明治27年1月
2	文楽今昔譚	木谷 蓬吟	道頓堀編集部 昭和4年12月
3	日本浄瑠璃史	小山龍之輔	赤木 正蔵 大正3年8月
4	絵入浄瑠璃史	水谷 弓彦	精華書院 大正5年5月
5	此君帖	橘 米吉	私家版 大正12年9月
6	義太夫大鑑	秋山 木芳	満州日日新聞社 大正6年12月
7	義太夫独習新書	義大夫研究会	大阪文楽社 大正9年2月
8	義太夫秘訣	岡 鬼太郎	服部書店 明治36年3月
9	浄瑠璃素人講釈	杉山其日庵	黒白発行所 大正15年11月
10	近世演劇考説	黒木 勘蔵	六合館 昭和4年11月
11	近松門左衛門	塚越芳太郎	民友社 明治27年11月
12	近松門左衛門	藤井 乙男	金港堂書籍 明治37年9月
13	近松著作一斑	塚越芳太郎	民友社 明治28年9月
14	近松の人々	高須 梅溪	岡村盛花堂 大正3年1月
15	近松の芸術と人生	飯野 哲二	文蔵書院 大正11年9月
16	近松研究の序篇	前島 春三	賢文館(初版大正12年) 昭和5年10月
17	近代舞踊史論	小寺 融吉	日本評論社出版部 大正11年2月
18	江戸近世舞踊史	九重 左近	萬里閣書房 昭和4年12月
19	俗曲評釈 江戸長唄	佐々 醒雪	博文館 明治41年7月
20	俗曲評釈 河東	佐々 醒雪	博文館 明治43年3月
21	俗曲評釈 上方唄	佐々 醒雪	博文館 明治43年12月
22	俗曲評釈 小唄と端唄	佐々 醒雪	博文館 明治44年2月
23	評釈名曲選	高野 辰之	富山房 大正15年6月
24	江戸時代音楽通解	樋口 素童	古曲保存会 大正9年10月
25	一中譜史	榎 素童	私家版 大正4年9月
26	長唄稽古手引草	町田 博三	邦楽研究会 大正12年2月
27	芳村家の代々	町田 博三	文祥堂 大正12年4月
28	大薩摩の代々	宮内 寿松	幕内のたより社 昭和5年7月
29	歌舞音楽考説	高野 辰之	六合館 大正4年8月
30	小唄研究	湯朝竹山人	アルス 大正15年1月
31	三遊亭円朝子伝	南横 老人	大川屋 明治22年11月
32	江戸の落語	関根 黙庵	服部書店 明治38年8月
33	講談落語今昔譚	関根 黙庵	雄山閣 大正13年4月
34	近松遺品及び参考品展覧会目録		
35	追善記念市川家歌舞伎展覧会図録		
36	大南北全集内容見本		
37	日本戯曲大全内容見本		
38	日本戯曲全集内容見本		
39	日本戯曲全集月報		
40	ほか		

## 4. 舞踊・邦楽・諸芸・雑纂

1	浄瑠璃史	寺山 星川	新進堂 明治27年1月
2	文楽今昔譚	木谷 蓬吟	道頓堀編集部 昭和4年12月
3	日本浄瑠璃史	小山龍之輔	赤木 正蔵 大正3年8月
4	絵入浄瑠璃史	水谷 弓彦	精華書院 大正5年5月
5	此君帖	橘 米吉	私家版 大正12年9月
6	義太夫大鑑	秋山 木芳	満州日日新聞社 大正6年12月
7	義太夫独習新書	義大夫研究会	大阪文楽社 大正9年2月
8	義太夫秘訣	岡 鬼太郎	服部書店 明治36年3月
9	浄瑠璃素人講釈	杉山其日庵	黒白発行所 大正15年11月
10	近世演劇考説	黒木 勘蔵	六合館 昭和4年11月
11	近松門左衛門	塚越芳太郎	民友社 明治27年11月
12	近松門左衛門	藤井 乙男	金港堂書籍 明治37年9月
13	近松著作一斑	塚越芳太郎	民友社 明治28年9月
14	近松の人々	高須 梅溪	岡村盛花堂 大正3年1月
15	近松の芸術と人生	飯野 哲二	文蔵書院 大正11年9月
16	近松研究の序篇	前島 春三	賢文館(初版大正12年) 昭和5年10月
17	近代舞踊史論	小寺 融吉	日本評論社出版部 大正11年2月
18	江戸近世舞踊史	九重 左近	萬里閣書房 昭和4年12月
19	俗曲評釈 江戸長唄	佐々 醒雪	博文館 明治41年7月
20	俗曲評釈 河東	佐々 醒雪	博文館 明治43年3月
21	俗曲評釈 上方唄	佐々 醒雪	博文館 明治43年12月
22	俗曲評釈 小唄と端唄	佐々 醒雪	博文館 明治44年2月
23	評釈名曲選	高野 辰之	富山房 大正15年6月
24	江戸時代音楽通解	樋口 素童	古曲保存会 大正9年10月
25	一中譜史	榎 素童	私家版 大正4年9月
26	長唄稽古手引草	町田 博三	邦楽研究会 大正12年2月
27	芳村家の代々	町田 博三	文祥堂 大正12年4月
28	大薩摩の代々	宮内 寿松	幕内のたより社 昭和5年7月
29	歌舞音楽考説	高野 辰之	六合館 大正4年8月
30	小唄研究	湯朝竹山人	アルス 大正15年1月
31	三遊亭円朝子伝	南横 老人	大川屋 明治22年11月
32	江戸の落語	関根 黙庵	服部書店 明治38年8月
33	講談落語今昔譚	関根 黙庵	雄山閣 大正13年4月
34	近松遺品及び参考品展覧会目録		
35	追善記念市川家歌舞伎展覧会図録		
36	大南北全集内容見本		
37	日本戯曲大全内容見本		
38	日本戯曲全集内容見本		
39	日本戯曲全集月報		
40	ほか		



鳥居清徳

# 近世文芸研究叢書

●近世文芸研究叢書刊行会編

●第二期 芸能篇全40巻

■造本・体裁

A5判・上製函入・本文クリーム中性紙使用

■刊行予定・定価(分売不可)

1、歌舞伎Ⅰ 全10巻

一九九六年十二月刊

揃定価一三五、〇〇〇円(税別)

ISBN4-87733-026-7 C3370

2、歌舞伎Ⅱ 全10巻

一九九七年四月刊

揃定価一三八、〇〇〇円(税別)

ISBN4-87733-027-5 C3370

3、浄瑠璃 全10巻

一九九七年八月刊

揃定価一四五、〇〇〇円(税別)

ISBN4-87733-028-3 C3370

4、舞踊・邦楽・諸芸・雑纂 全10巻

一九九八年一月刊

揃定価一四〇、〇〇〇円(税別)

ISBN4-87733-029-1 C3370

第二期 芸能篇全40巻

揃定価五五八、〇〇〇円(税別)

## 好評既刊

### 近世文芸研究叢書第一期文学篇全23巻

1、通史 全7巻

揃定価八〇、〇〇〇円(税別)

2、一般 全7巻

揃定価九六、〇〇〇円(税別)

3、作家 全9巻

揃定価一一五、〇〇〇円(税別)

全巻揃定価二九一、〇〇〇円(税別)

## ◆国文学関係書籍の御案内(定価は税別)

### 芭蕉研究資料集成

全39巻 久富哲雄監修・解題

俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。

明治篇全9巻 揃定価一〇六、〇〇〇円

大正篇全11巻 揃定価一五〇、〇〇〇円

昭和前期篇全19巻 揃定価二七五、〇〇〇円

### 蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解題

日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。

揃定価一八六、〇〇〇円

### 西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解題

江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。

揃定価一二六、〇〇〇円

### 俚言集覧 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解題

江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに複製。活字本にはない図像や刺記、書き込み等も多く、研究者に新たな資料を供与する。

揃定価一五〇、〇〇〇円

### 徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編

徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七二名の伝記集。年譜・肖像画付。

揃定価七六、〇〇〇円

### 日本鹿子

磯貝舟也著 久富哲雄解題

元禄四年三月刊行の、全国的な道・国別の地誌十五巻を復刻。城・陣屋・神社・仏閣・名所・名物等を詳細に記述する、江戸文化研究者必携の書。

定価一八、〇〇〇円

### 影印 仮名錦繡段・三體詩・古文真寶

久富哲雄編・解題

江戸期に刊行された貴重な振仮名つき漢詩文集を復刻、『錦繡段』『三體詩』は、天和版と元禄版の二種類を収録。近世の文学作品読解の参考となる文献集。

定価一〇、〇〇〇円

### 市島春城随筆集

全11巻 藤原秀之解題

新聞記者、政治家、図書館人、文人春城——彼の体験や交友、早稲田や大隈重信、趣味である古書、書翰蒐集や印章などを綴った随筆を刊行。

揃定価一〇二、〇〇〇円

〒103東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎〇三(三八〇八)一八二二 FAX〇三(三八〇八)一八二二

株式会社 クレス出版